

# 巨木を通じて、自然と人間のあり方を学んでいます。

(広島市)

巨木を訪ねる会 代表 **加納 千里子**



プロフィール  
京都府舞鶴市生まれ。島根県益田市、広島県東城町（現在は庄原市）で育つ。現在は、夫が営むすし店を手伝いながら、「巨木を訪ねる会」を主宰している。

## Q どうして巨木に関心をいだくようになったのですか。

加納：樹木や草花が大好きだった両親の影響でしょうか、幼い頃から自然が大好きでした。中学まで益田市にある小さな社宅に住んでいたのですが、ある時、母のふる里である広島県東城町に住む祖母が「だれか牛を飼ってくれる者がおらんかのー」と言ったことがきっかけで、父の反対を押し切って祖母の家に寄留することになりました。益田市に比べると東城町は田舎ですが、中国山地の自然に囲まれた四季折々の生活はとても魅力的でした。そんな経験があったものですから、社会人になっても「小さな自然を守る会」といった、自分なりの活動をこつこつと続けてきました。その過程で巨木との出逢いがあり、今日まで、思いがけなく巨木を訪ねる旅をすることになりました。

最初の出逢いは、山梨県北杜市の山高神代桜という樹齢2,000年の巨樹です。この桜は国の天然記念物第1号に指定されたもので、日本三大桜の一つに数えられています。この神代桜に恋焦がれ一人旅をしました。ところが、ひっそりと佇む光景を想像していたのとは大変な違いで、狭い駐車場には次々と大型バスがやってきて、大挙して押し寄せた観光客は、桜を一瞥するだけでお土産物を買ってさっさと立ち去っていきます。その現実を目の当たりにして、何だかとても寂しいものを感じました。巨木は気の遠くなるような歳月を周りの自然とともに生きてき

たと思うのですが、その歴史を振り返られることもなく、平気で根っ子を踏み荒らされることに大きな衝撃を受けました。とてもショックでした。

## Q そのショックを経て巨木を訪ねる会を設立した経緯をお聞かせください。

加納：たまたまですが、広島県の旅行会社が「広島島の巨樹巨木を訪ねる旅」というツアーを企画しているのを知り、参加しました。これは1年かけて県内の巨木をめぐるものでしたが、2年目も同じコースだったものですから、その時の気の合った仲間と「巨木を訪ねる会」を立ち上げることになりました。私の店の忙しい時期（1月、8月、12月）を除いて基本的に毎月1回、30名前後の仲間と中型バスで訪ねます。

10年続きましたので、これまで訪ねた巨木は数えきれないほどです。最近では中四国を拠点に広範囲にわたっていますので、私は下見を含めて1,000本は超えていると思います。巨木の情報は私が収集していますが、この頃は私たちが巨木を訪ねていることをご存知の方からも情報をいただくようになって、ありがたく思っています。事前に必ず下見を行い、コースを組み立てます。その土地の文化や、樹をとりまく歴史などはバスの中で話しますが、巨木を訪ねた場所では説明しないことにしています。参加者個々の感性を大切にしたいと考えているからです。

## Q 月1回とはいえ10年も続いている巨木の魅力はなんですか。

加納：風雪に耐えて生き続ける巨樹たちのエネルギーには凄まじいものがあります。そのエネルギーを肌で感じることはないでしょうか。私も最初の頃はただ大きな木を「見に行く」という気持ちでいましたが、ある巨木に出逢ってからは意識が大

きく変わりました。その巨木は広島県高野町（現在は庄原市）の天満宮に立つ、樹齢1,000年以上のイチヨウの木です。仲間と訪ねた後、「巨木を描くところを取材したい」というテレビ局の人と一緒にイチヨウの木を描いていますと、「ポットン」と大きな音がしてギンナンが落ちました。その音はまるで地の底から湧き上がるように、静かな山里にこだましていきました。2人とも釘付けでした。その時、木の神様に「私はここにいるよ」と呼ばれたように感じました。それ以来、私たちの旅は、単に大きな木を見るのではなく、木の神様に逢いに行く旅になりました。大きな木には本当に神様が宿っておられます。

## Q 全国的に巨木ブームが広がる一方で、巨木の生態系への影響が懸念されています。

加納：大きな課題だと思います。巨木の存在が知られると、多くの人が押し寄せ、道や駐車場などが整備されます。しかし、巨木たちは周辺の生態系とともに生きているわけで、当然、大きな影響を受け、最悪の場合枯れてしまうこともあります。私たち人間はそうしたことにも配慮し、根っ子を踏み荒らさないようにすべきですし、あるがままの自然を愛でることが大切でしょう。そのことを機会あるごとに伝えていきたいと思っています。

私は子ども時代を島根で過ごしましたが、縁あって、現在、島根県の自然環境課と連携して「島根の文化と巨木を訪ねる旅」をしています。そこで強く感じたことは、地域には宝ものがたくさん眠っているということです。巨木もそうですが、大陸から分かれた日本海には地球誕生の秘密を繙く貴重な地質や文化が色濃く残っています。今、必要なことは、それらを次世代に継承していくことだと思います。私たち巨木を訪ねる会の旅は本当に小さな旅ですが、何かの形で、少しでも役立つことができれば嬉しいです。

インタビュー・構成：  
城市創（株式会社ジェイクリエイト）